

熱中症への警戒が必要な夏到来に合わせて越前市社協は6日、高齢者の見守り活動をしている市内の民生委員19人全員に、室内の熱中症の危険度を測定できる携帯型機器を貸与した。気温と湿度から危険度を知らせる仕組みで、お年寄りに早めの水分補給やエアコンの使用を呼び掛けて熱中症の予防に役立てる。

熱中症指数で 高齢者見守り

越前市社協 民生委員に測定器貸与

に収まるサイズで、気温と湿度から測る「熱中症指数」を、基準に危険度を4段階で分け、ランプの色とアラームで知らせる。お年寄りは体温の調整機能の衰えから暑さを自覚しにくく、熱中症対策が遅れがちになるため、見守り活動に合せて注意喚起していく。

この日は市福祉健康センターで貸与式が行われ、市社協

の和田てる子副会長が「地域の見守りに役立てて」と、民生委員代表の師田忠子・市民生委員児童委員協議会連合会長に測定器を手渡した。師田会長は「お年寄りはトイレなどを気にして、つい水分不足になりがちなので、実際に測定器の数値を示して説明すると効果がありそう」と話していた。

(高島健)



越前市社協が民生委員全員に貸出した熱中症指数の測定器。6日、市福祉健康センター。